

第 92 の山登頂記

(遅ればせながら) **明けましておめでとうございます。**

今年の冬は、例年より寒いようで大変です。そう言うなか、皆様元気にお暮らしのことと思います。

三浦さんの住む東京でも、先日のニュースでは、日中の雪、その雪が翌朝氷結し、大騒ぎしていたとか（お見舞いはしておりませんが・・・）。

当方、12月初め、風邪の気配があり、やばい！と思い、「葛根湯」（初期の風邪に有効。2日分900円程度）を処方したのが良かったのか、ひどくならず済み、まずまずの状態をキープ中です。

山登りは、11月初めの第91の山（真田ヶ岳）登頂以来、ここ2カ月近く疎遠になっていました。すなはち、12月の地元山の会の行事による南阿蘇・俵山への忘年登山、これは家庭の都合で不参加、元日の厚狭公民館主催の、初日の出・松嶽山登山、これは天候がいまいちで参加せず、またこの1月は、地元山の会は定例会無しということでした。

久しぶりに、この24日（木）、地元山の会有志での下関市長府の四王司山（標高392M）登山に参加しました。ご存じの通り、以前やちょうの会・全国大会・山口編で登った山です。

この山は、正月初めての寅の日、前夜から頂上の四王司神社（国の安泰を願う毘沙門天／四天王の一つ多聞天を祀る）へ、近郷近在から参詣者が多数訪れ、賑わいます。今年は、1月12日がそうでしたが、我らの会は、メンバーの都合が付かず、二寅のこの日、24日、神社（頂上）を目指しました。

地元山の会のメンバー（7名）が、リーダーの車で勝山登山口（やちょうの会登山時と登山口が異なる）駐車場に、9時40分頃到着。

登山開始までは、いつものパターンと同じで装備準備、準備運動、差入れのバナナを食すなど。

10時に登山口で使用前全員記念撮影し、登山開始。持参の高度計での表示は、約1000M。残るは300Mです。枯葉の積み重なった道をクッションを感じながら登ります。特に急登はありませんし、道はそれなりに整備されており、気分良く登ります（※011）。15分も登ると、第一番目のポイントの鳥居に到着。この日は、風が比較的強く、道の脇に聳える木々が、上であなっています。少し休憩です。持参のお茶を飲む人、着

込んだ衣裳を軽くする人等々。少ししてまた似た様な道を登って行きます。二寅とは言え、さすが寅の日、先に御参りを済ませて降りて来る何組もの人達に出会いました。40分も登ると、次のポイント・高圧線鉄塔に到着。視界が開け、手前に長府西部、奥は、霞んでいるけど下関の中心街、駅の方面が見渡せませす（※023）。高度計を見てもみると300M。今回もゆっくり登山ですが、目的の高度差の3分の2をクリアーした訳です。

登山開始後約1時間10分、神社のすぐ手前にあるお城跡と三角点に到着しました。まもなく神社前の広場に到着、早速、お参りをします。見ると、普段と違い宮司さんや世話役の人等もいて、張子の寅を下げた笹や色んなお守りとか、お札等も売っていました。持っていた5円玉を賽銭箱にほおり入れ、鈴を鳴らしてもろもろの安全をお祈りしました。ふるまいのお神酒も頂きました。本堂の中では祝詞も上がっていました。

それらが一段落し、展望台の方へ南斜面を少し下りました。晴れ間があり海は輝いているものの、景色はやや霞んでます（※042）。手前の下関火力発電所煙突だけはよく解りますが、臨海のブリジストンや神戸製鋼所などはやっと解る程度です。

さて、時間は11時20分過ぎですが、早目のランチです。持参の「カレー肉じゃが」を振る舞いました。公民館での「男の腕まくり」（料理講座。当方は所属してません）で習ったんですか？とか聞く人もいました。クッキーやらチョコレートやら沢庵やらの差し入れがありました。肉じゃがや沢庵、お菓子類を肴に冷たいビールもうまい！

昼食会は30分位だったでしょうか、もとの道を少し帰り、神社正面側の石段を登ってみると、しめ縄を飾った鳥居越しに本堂前の様子が伺えました（※043）。そこを過ぎ、淡々ともとの道を下って13時頃には駐車場に到着。一路、帰りの道を進み、早くも、14時頃には我が家に着いたのでした。

久しぶりの登山、上空では冷たい強めの風が吹いてはいましたが、軽めのコースを気持ちよく進むことが出来ました。この日の歩行数は、9102歩。

山口／古賀

